

2010年3月期第2四半期決算説明会資料

～09年度2Q累計営業利益は△76億円、事業構造改革を推進中～

2009/10/23

◎ 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 大林 秀仁

2010年3月期第2四半期 決算説明会

I 2010年3月期第2四半期累計期間 決算概要

II 2010年3月期 業績予想概要

III 参考:データ集

I

2010年3月期第2四半期累計期間 決算概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

2010年3月期第2四半期累計期間(ハイライト)



(億円)

	当期実績	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	2,817	△1,417	△34%	△46	△2%
営業利益	△76	△202	—	+11	—
経常利益	△70	△209	—	+14	—
当期利益	△53	△129	—	+0	—
一株利益	△38円58銭	△93円57銭		+00円32銭	
一株純資産	1,650円50銭	△91円40銭		—	

* 前回予想(2009年7月公表値)

2010年3月期第2四半期累計期間(偏差説明)

対前回予想値(2009年7月1Q決算発表時)比較

売上高 (2,863億円 → 2,817億円 △46億円)

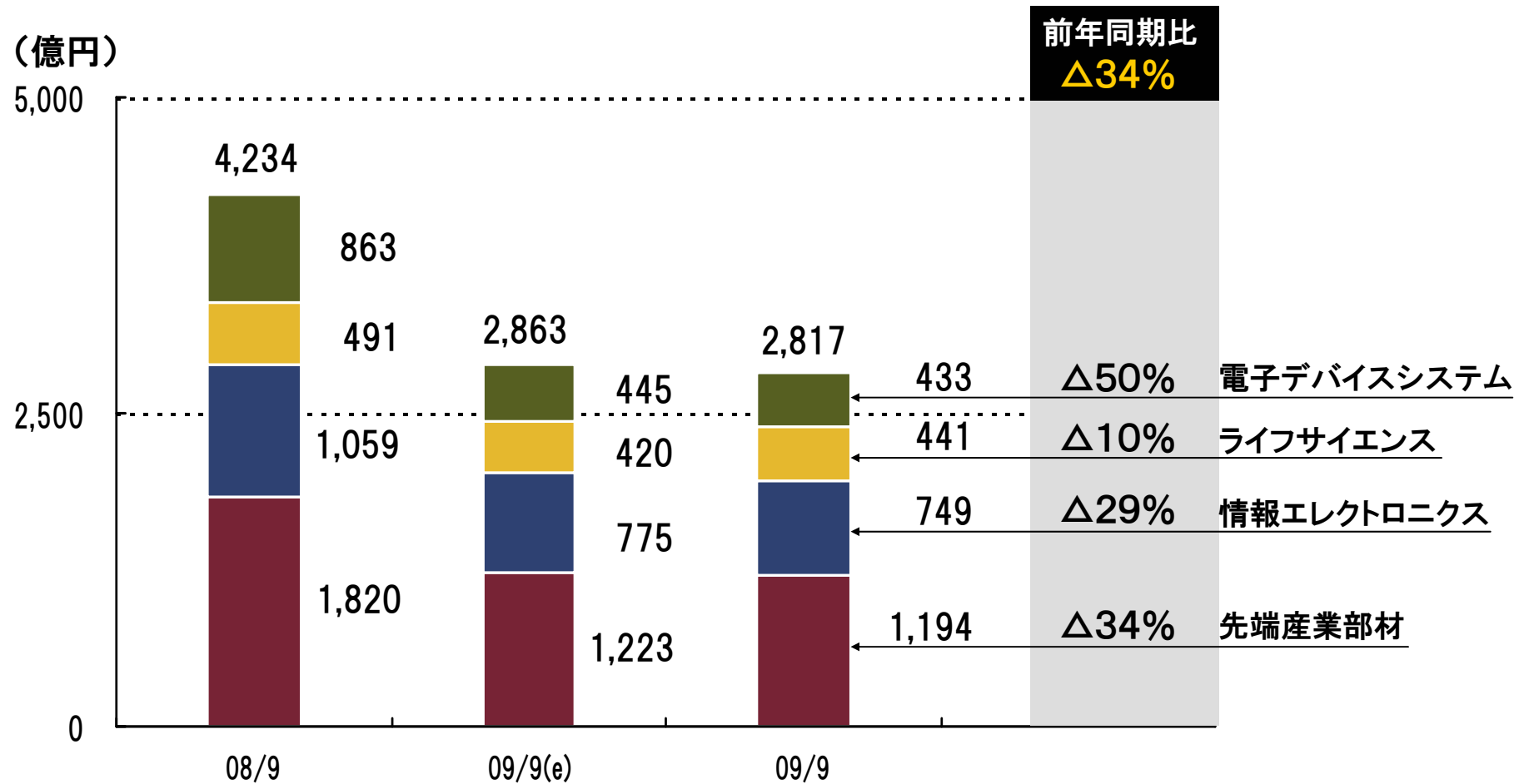
- 電子デバイスシステム: 解析装置の投資抑制等により12億円減少
- ライフサイエンス: 医用分析装置の好調等により21億円増加
- 情報エレクトロニクス: ITソリューション、半導体デバイスの需要減等により26億円減少
- 先端産業部材: 太陽電池関連部材の価格下落等により29億円減少

営業利益 (△87億円 → △76億円 +11億円)

- 電子デバイスシステム: コスト低減等により4億円増加
- ライフサイエンス: 医用分析装置の好調等により13億円増加
- 情報エレクトロニクス: ITソリューションの需要減等により5億円減少

経営成績(セグメント別売上高)

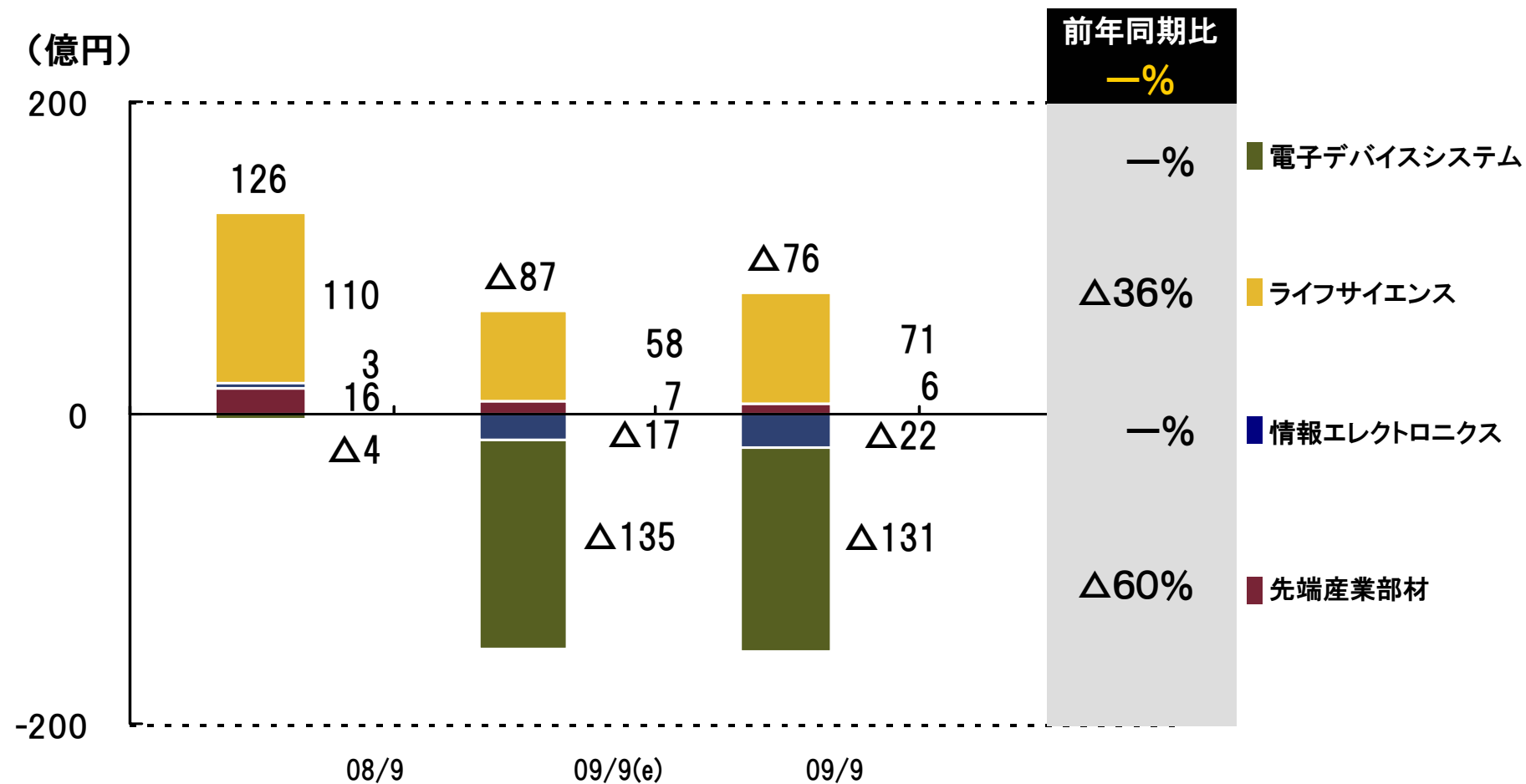
売上高



(e)は前回予想(2009年7月公表値)

経営成績(セグメント別営業利益)

営業利益



(e)は前回予想(2009年7月公表値)

経営成績(損益計算書〔要約〕)

2010年3月期第2四半期累計

(億円)

	当期実績	前年同期比	
		増減額	増減率
売上高	2,817	△1,417	△33%
売上原価	2,492	△1,157	△32%
売上総利益	325	△260	△44%
販売費及び一般管理費	401	△58	△13%
営業損失	△76	△202	—
営業外収益	10	△7	△41%
営業外費用	4	△0	△2%
経常損失	△70	△209	—
特別利益	3	△5	△64%
特別損失	1	△5	△85%
税金等調整前当期純損失	△68	△209	—
法人税等	△15	△80	—
当期純損失	△53	△129	—

財政状態(貸借対照表〔要約〕)

2009年9月末（億円）

			09/3末比				09/3末比
流動資産		3,059	△347	流動負債		1,391	△279
現預金、関係会社預け金	864	△35		支払手形及び買掛金	982	△157	
受取手形及び売掛金	1,337	△206		その他	409	△122	
たな卸資産	634	△85		固定負債		263	△1
その他	223	△21		退職給付引当金	255	+1	
固定資産		867	△3	その他	8	△2	
有形固定資産	583	△2		純資産		2,272	△70
無形固定資産	45	+2		株主資本	2,275	△74	
投資その他の資産	239	△3		評価・換算差額等	△5	+3	
				少数株主持分	2	+0	
資産合計		3,926	△350	負債及び純資産合計		3,926	△350

財政状態(キャッシュ・フロー計算書〔要約〕)

(億円)	09/上		09/上
営業活動による キャッシュ・フロー	+20	財務活動による キャッシュ・フロー	△21
税引前利益	△68	配当金の支払	△21
減価償却費	+46	その他	△0
運転資金	+111	換算差額	△14
法人税等還付額	+31	現金及び現金同等物の 09/9月末残高	+696
その他	△100	増減額	△100
投資活動による キャッシュ・フロー	△86	期首残高	+796
有価証券の取得・売却	+4		
固定資産取得・売却	△45		
その他	△45		
フリー・キャッシュ・フロー	△65		

Ⅱ

2010年3月期 業績予想概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2009年7月公表値)
(e1)は、今回予想(2009年10月公表値)

2010年3月期業績予想(ハイライト)



(億円)

	今回予想	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	6,000	△1,750	△23%	△380	△6%
営業利益	△66	△215	—	△19	—
経常利益	△60	△225	—	△12	—
当期利益	△63	△134	—	△6	—
一株利益	△45円80銭	△97円24銭		△4円36銭	
一株配当	10円00銭	△20円00銭		00円00銭	
ROE	△2.7%	△5.8%		△0.2%	
FIV	△177	△156		△12	

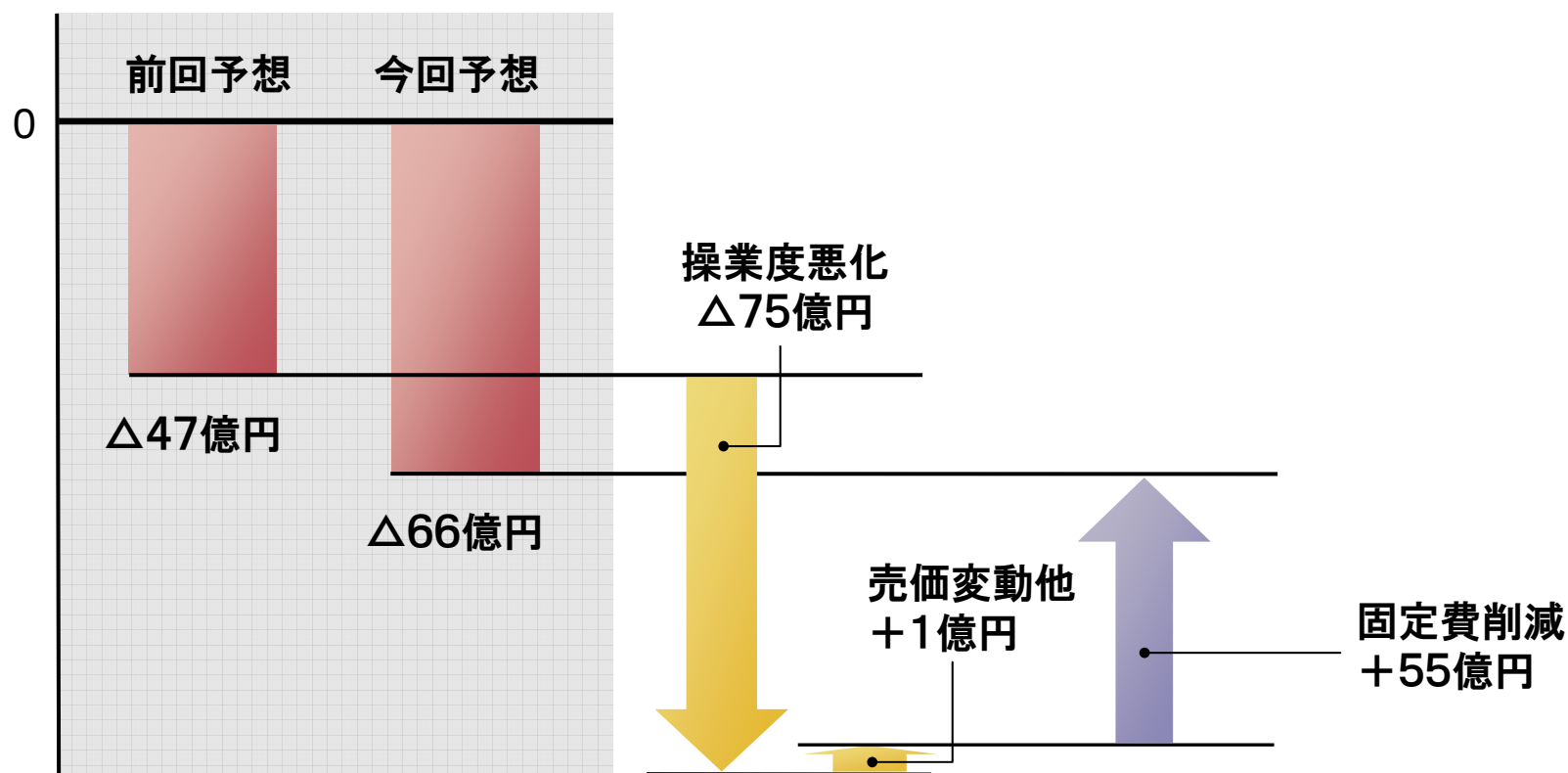
(注)想定レート: 1USD= 90円
1EUR=125円

* 前回予想(2009年7月公表値)

2010年3月期業績予想(営業利益偏差説明)

対前回予想値(2009年7月1Q決算発表時)比較

営業利益 ($\Delta 47$ 億円 $\rightarrow$ $\Delta 66$ 億円 $\Delta 19$ 億円)

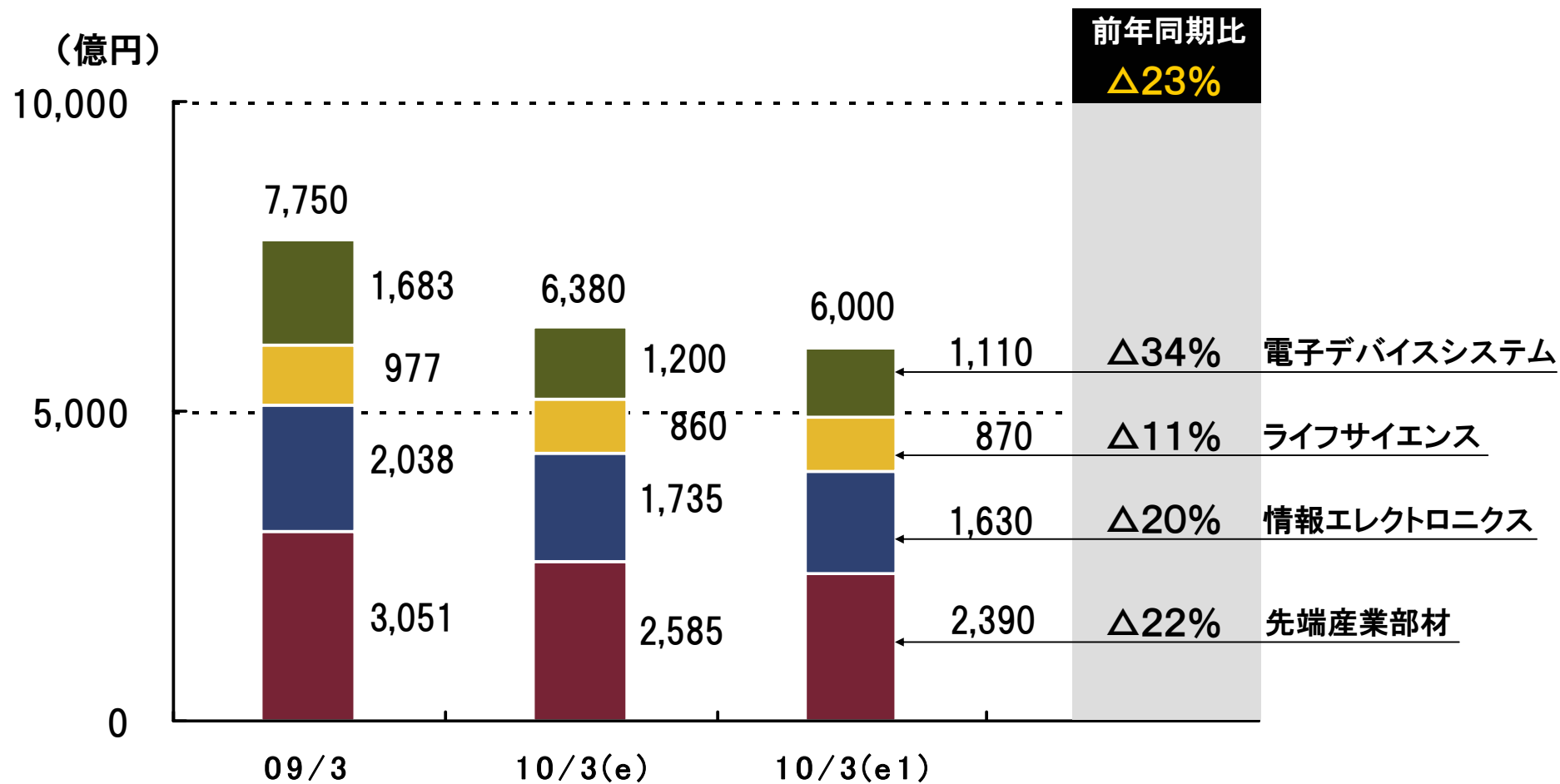


■ 人員の適正化

09/3末 $\rightarrow$ 10/3末 $\Delta 1,450$ 人(09/9末 $\Delta 910$ 人)

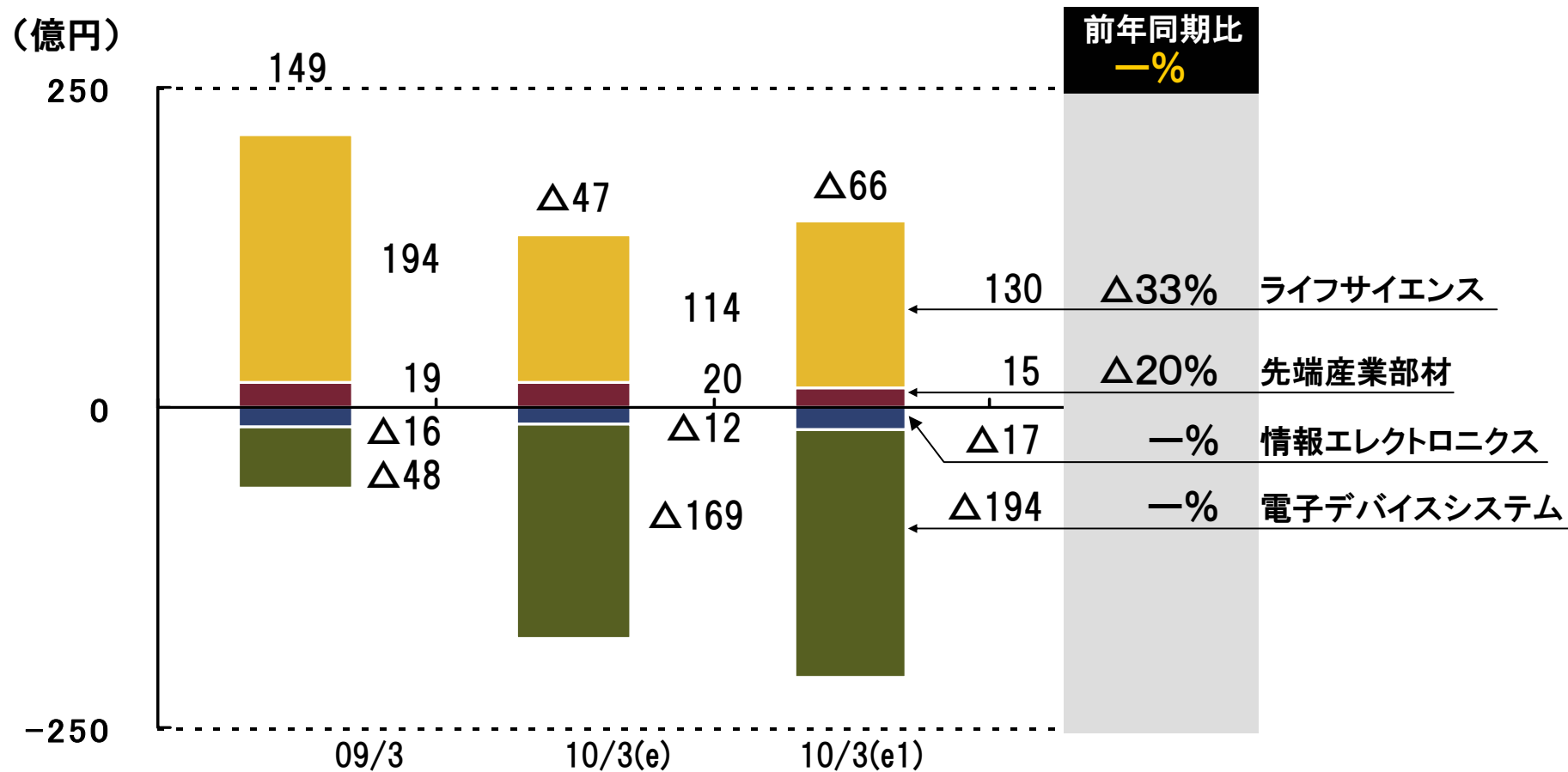
2010年3月期業績予想(セグメント別売上高)

売上高



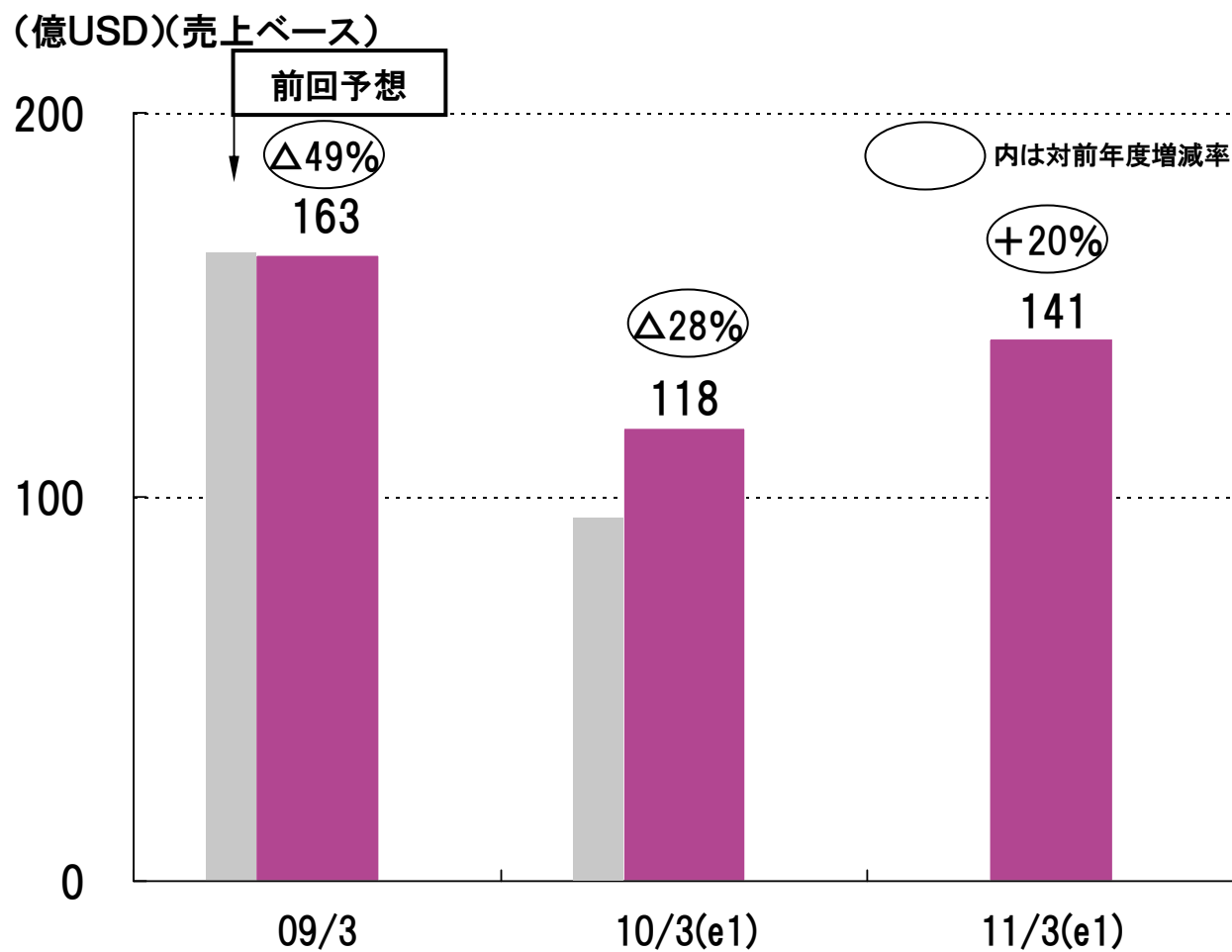
2010年3月期業績予想(セグメント別営業利益)

営業利益



(半導体製造装置)市場動向

半導体製造装置(前工程)市場

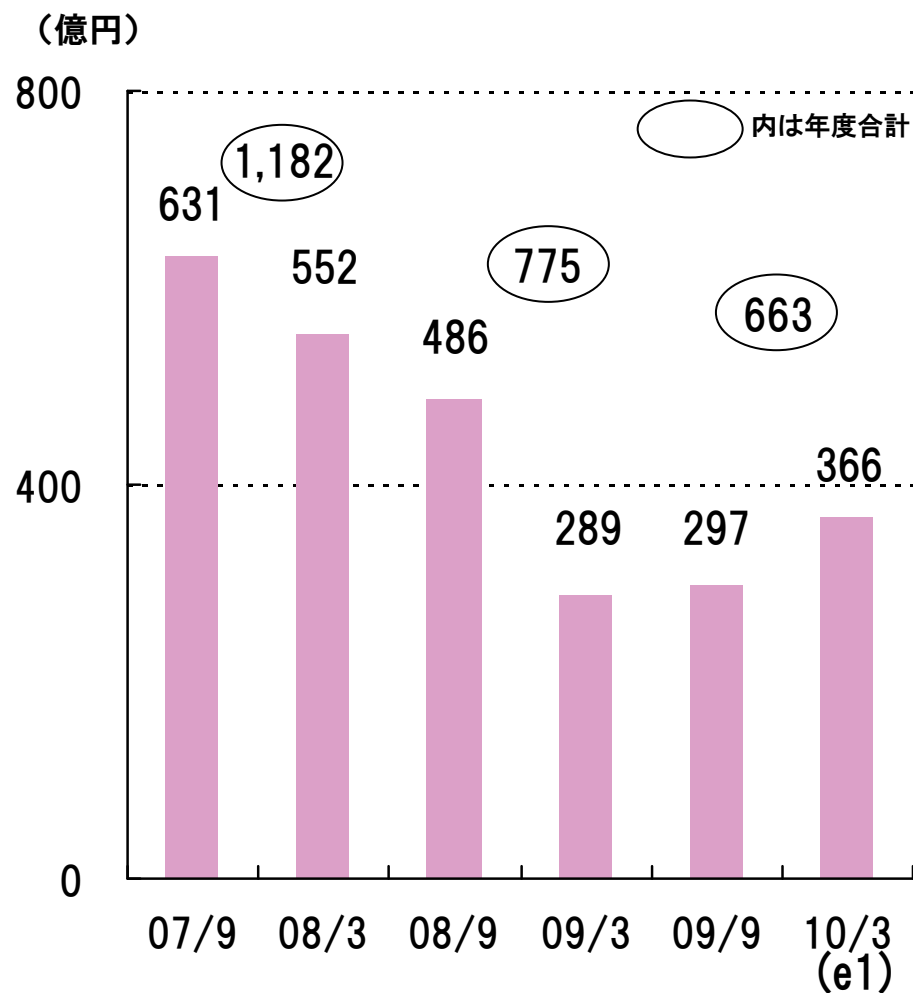


(出所)SEMI/SEAJの09年8月迄の実績値、Gartner予測及び当社推測

(注)前回予想は09年4月の09年3月期決算発表時の予想

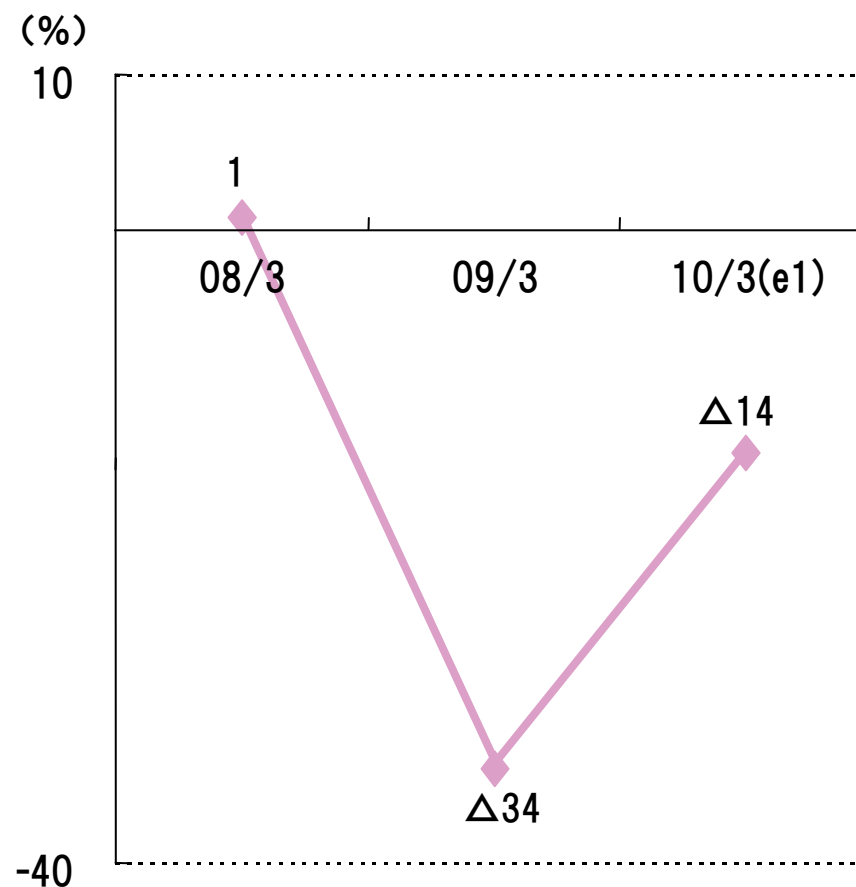
(半導体製造装置)受注高の推移

受注高(自社製品)の推移



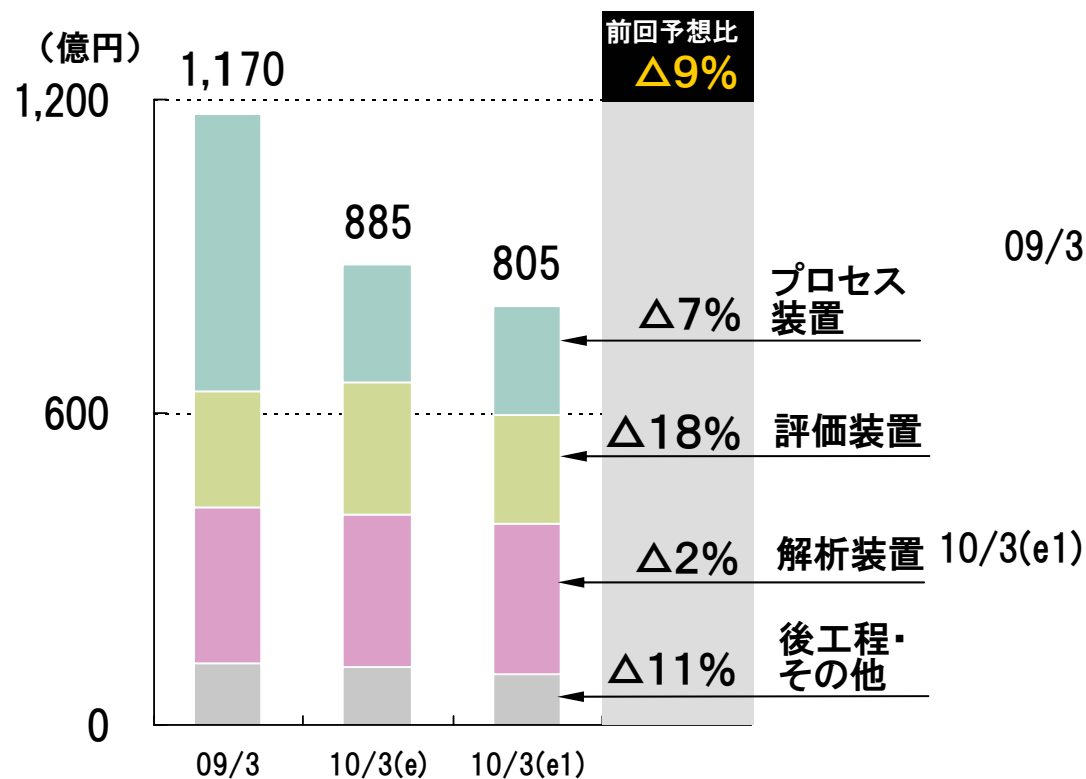
(注)上記受注高は、商事品を除いた自社製品の数値となっております。

受注高(自社製品)の推移(前年度比伸び率)

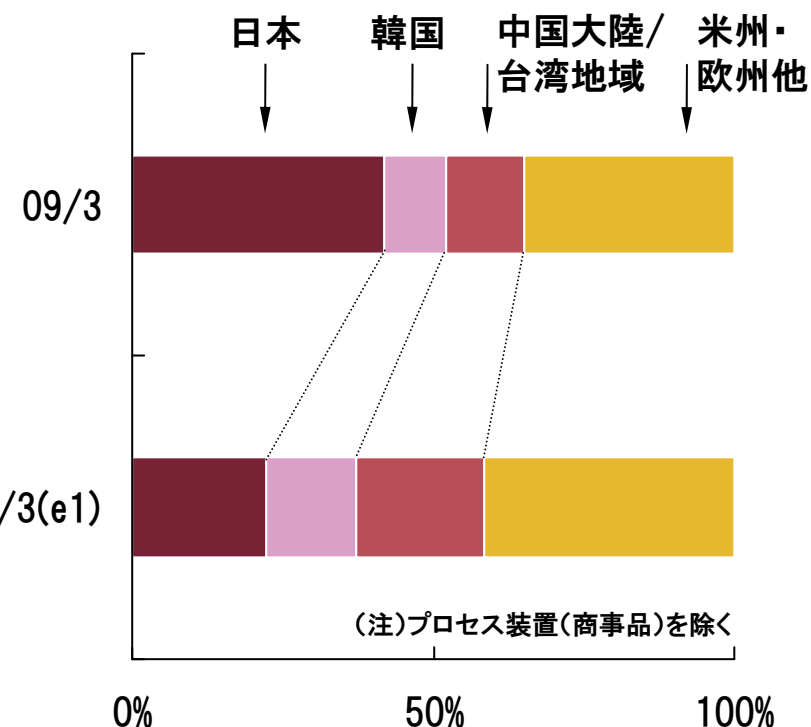


(半導体製造装置)売上高の推移

主要製品群別売上高の推移



地域別売上高比率

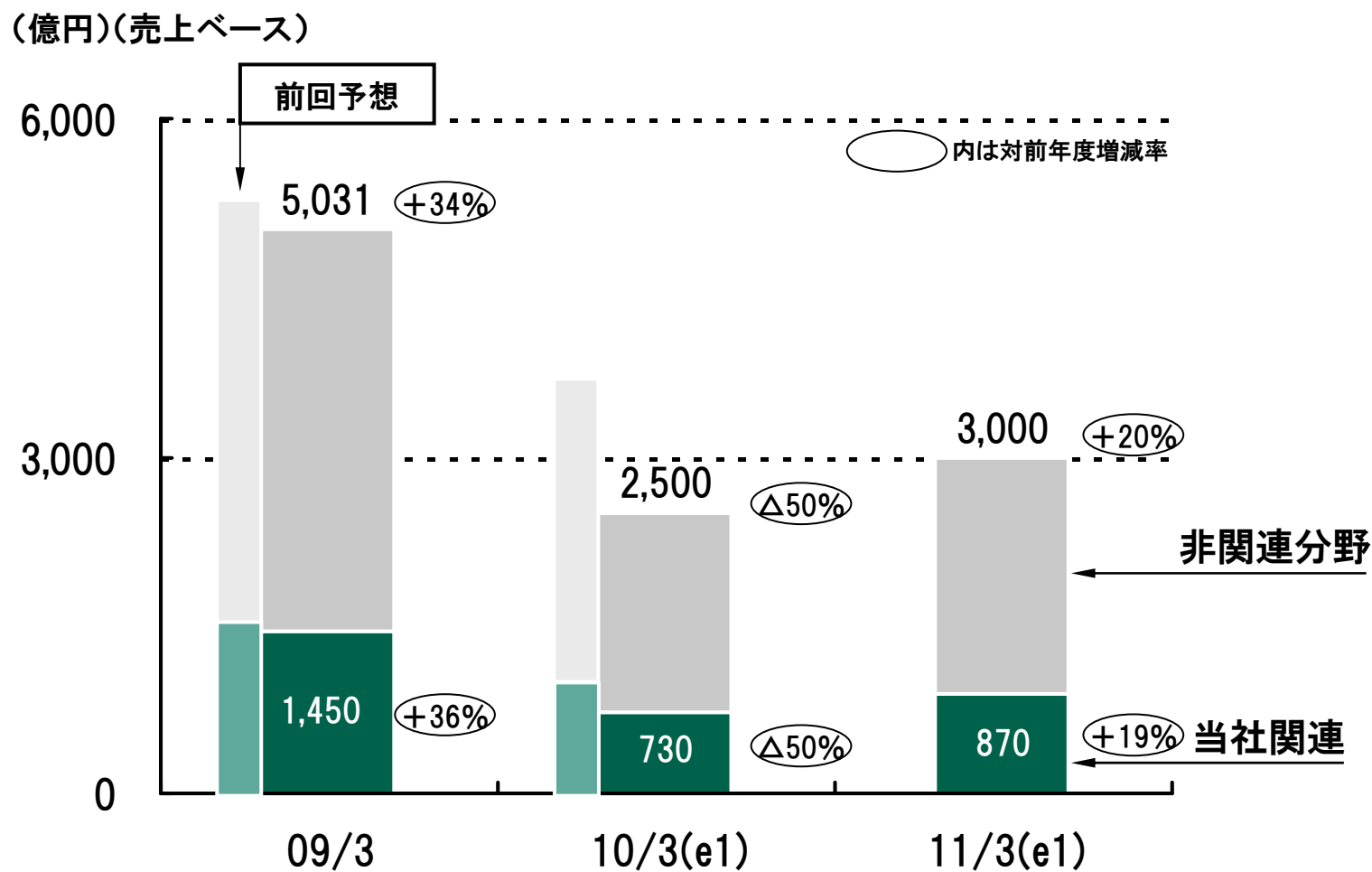


今後の取り組み

1. 顧客価値の実現(新技術への対応、生産性:歩留まり向上、コスト削減)
2. 市場の質の変化への対応(大手半導体メーカーへの投資集中、共同評価の推進)
3. コア製品・技術を軸に優位性ある分野でのポジション獲得

(液晶関連製造装置)市場動向

液晶関連製造装置市場

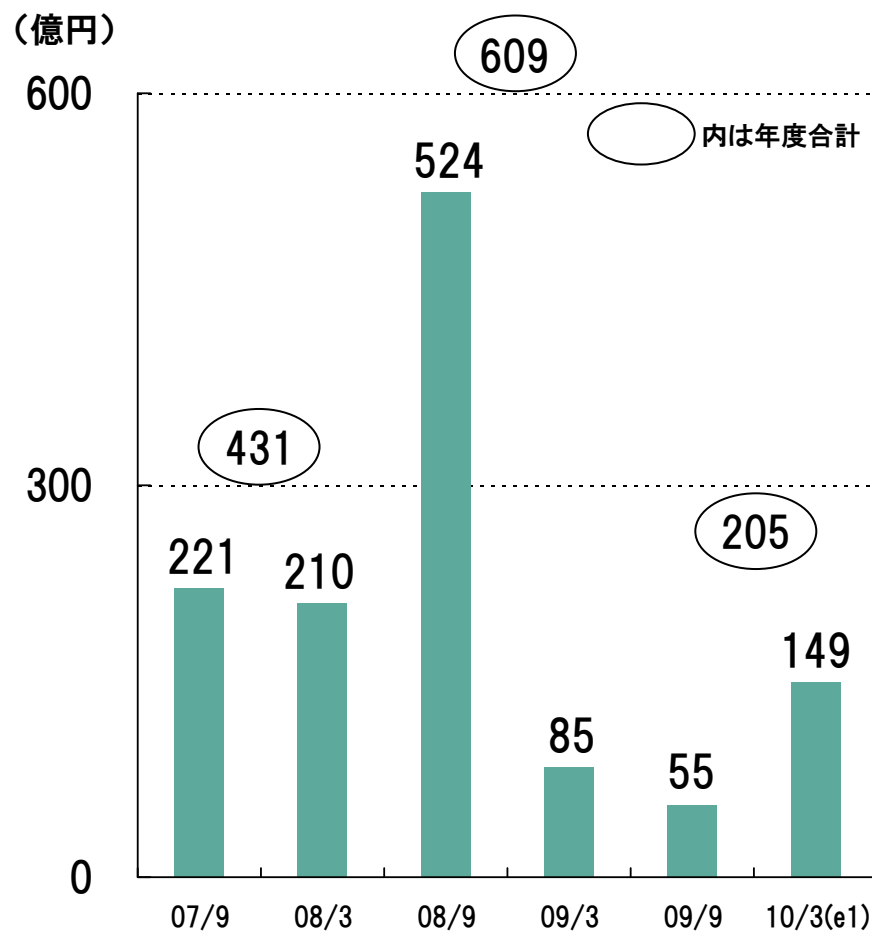


(出所)SEAJ(09年07月)日本製装置市場データに基づき当社にて推測

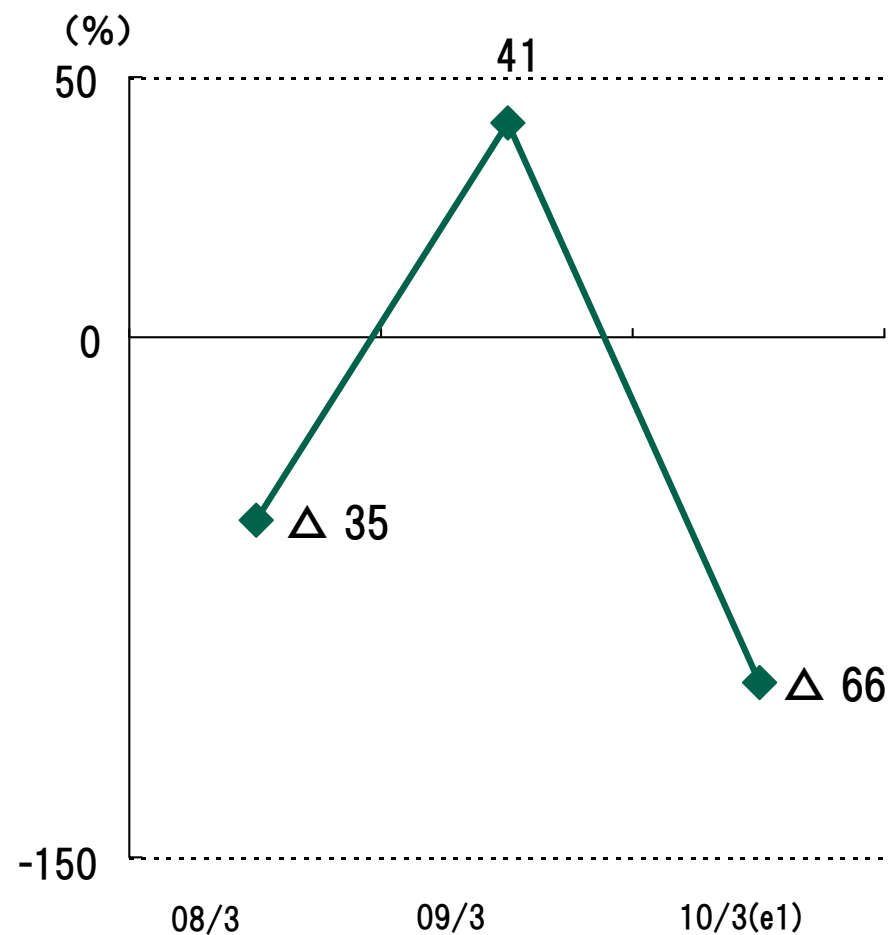
(注)前回予想は、09年4月の09年3月期決算発表時の見通し

(液晶関連製造装置)受注高の推移

受注高の推移

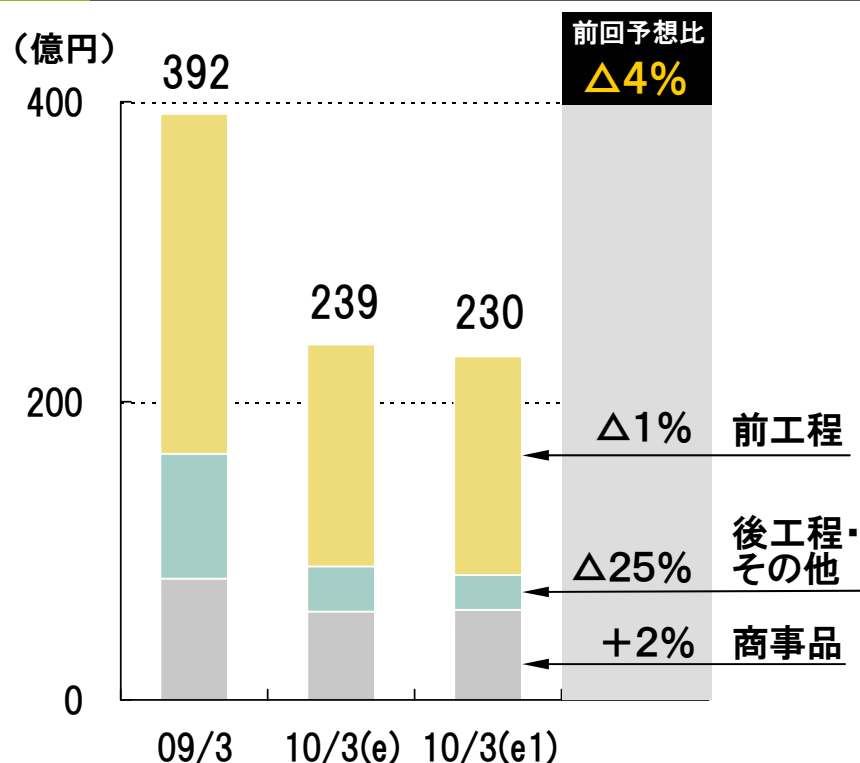


受注高の推移(前年同期比伸び率)

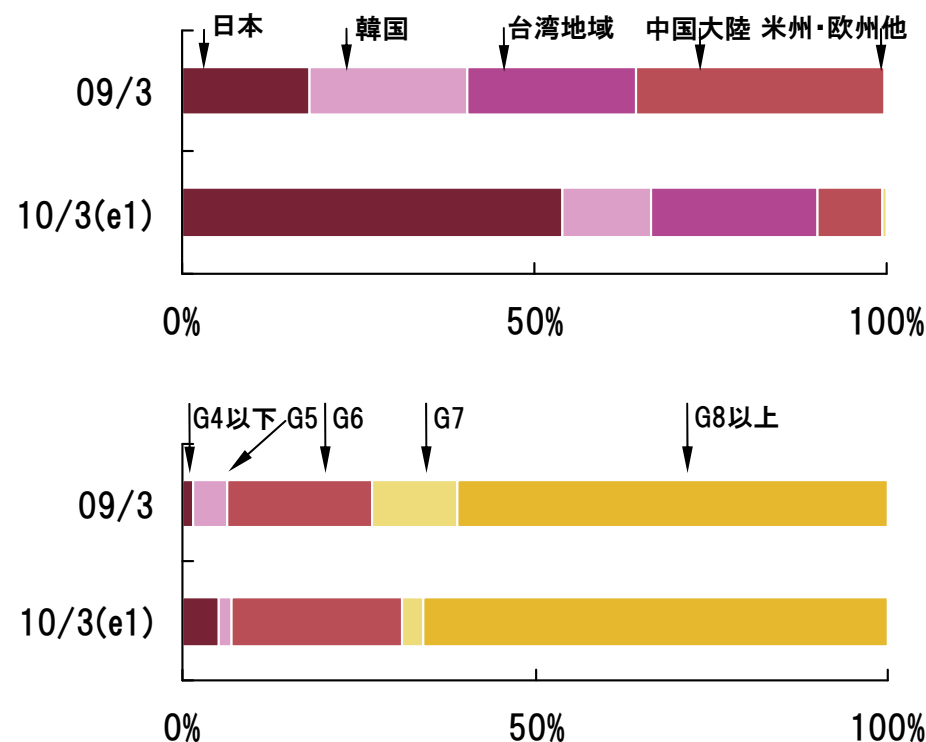


(液晶関連製造装置)売上高の推移

主要製品群別売上高の推移



地域別・世代別(前工程装置)売上高比率

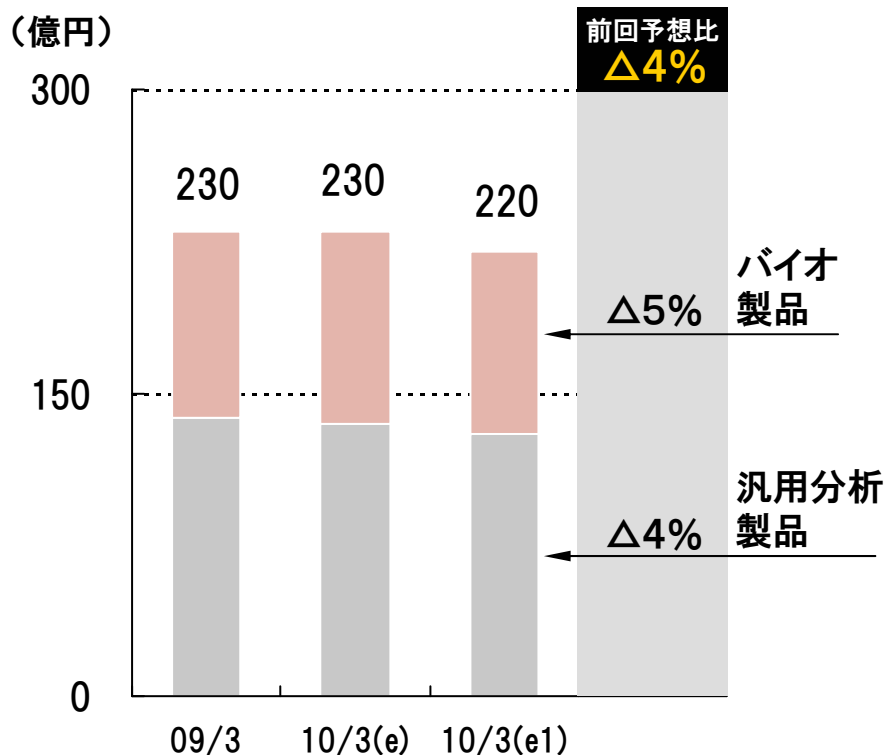


今後の取り組み

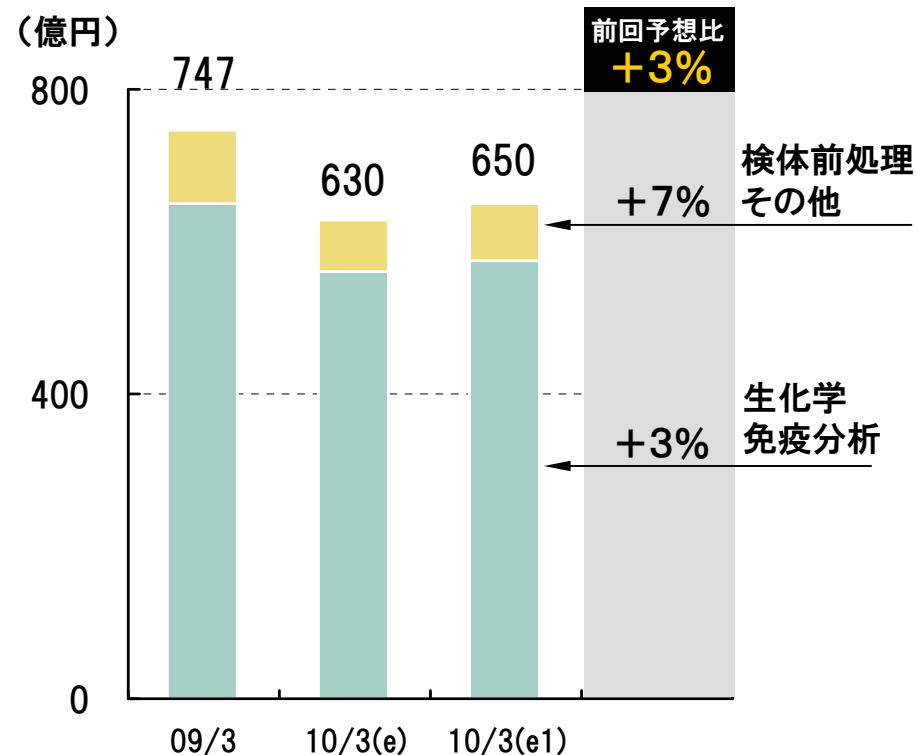
1. 大型新製品の開発、市場投入によるシェアアップ
2. 新規事業開発による事業拡大(有機EL製造・検査装置、太陽電池製造装置)
3. 重点地域への営業強化(中国での新規投資計画)

(ライフサイエンス)売上高の推移

売上高の推移(バイオ・分析)



売上高の推移(メディカル)



今後の取り組み

1. アプリケーション充実による成長市場への積極的な対応(バイオ・製薬・食品・環境・エネルギー)
2. 国内外有力メーカーとのSCB(System Collaboration Business)の推進

(ライフサイエンス)東京テクニカルセンタの開設

日立ハイテク
HITACHI

■ 設立目的

自動分析装置の研修・デモ・学術対応施設を都内に設立することにより、顧客サポートを強化し、受注拡大に貢献する。



(注)研修写真はイメージです。

■ センタ員

計8名

■ 開設時期

2009年10月1日

■ 住所

東京都港区
芝公園2-4-1
ダヴィンチ芝パークB館

【最寄り駅】

浜松町駅 徒歩7分
大門・芝公園駅 徒歩3分



■ 設置機種

LABOSPECT008/003、7700、7180、9000 他

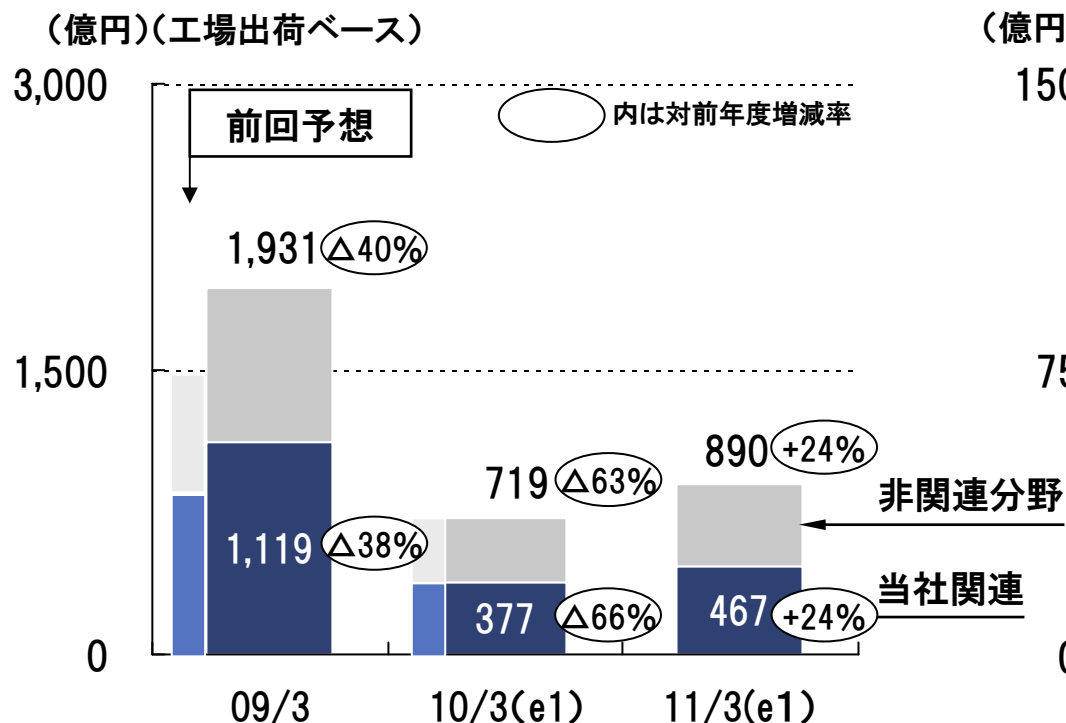
■ その他

延面積1,092㎡



(チップマウンタ)市場動向及び売上高の推移

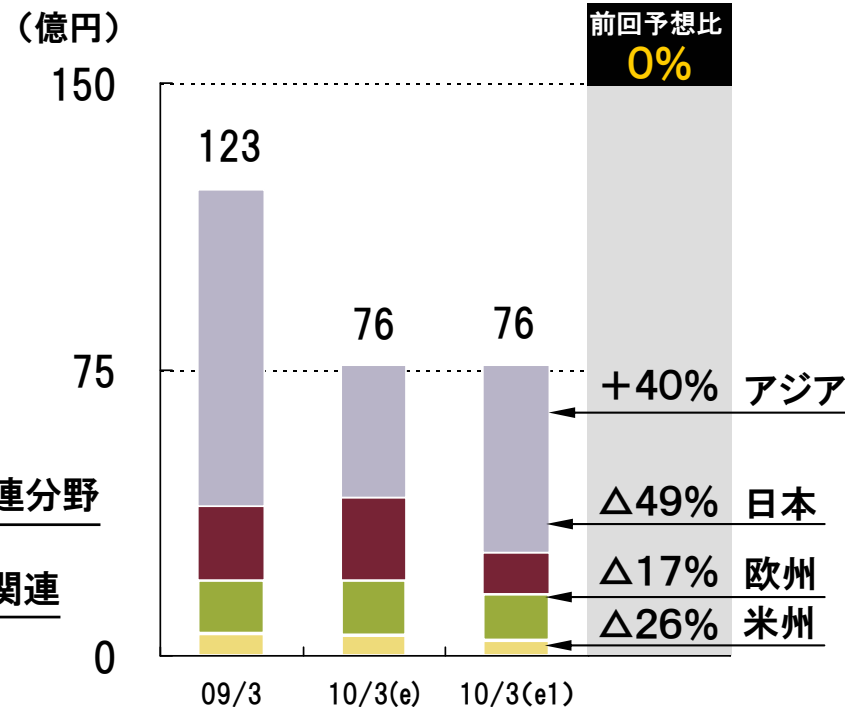
チップマウンタ市場



(出所) 日本ロボット工業会資料(09年6月)調査機関資料に基づき当社作成

(注) 前回予想は09年4月の09年3月期決算発表時の予想

売上高の推移

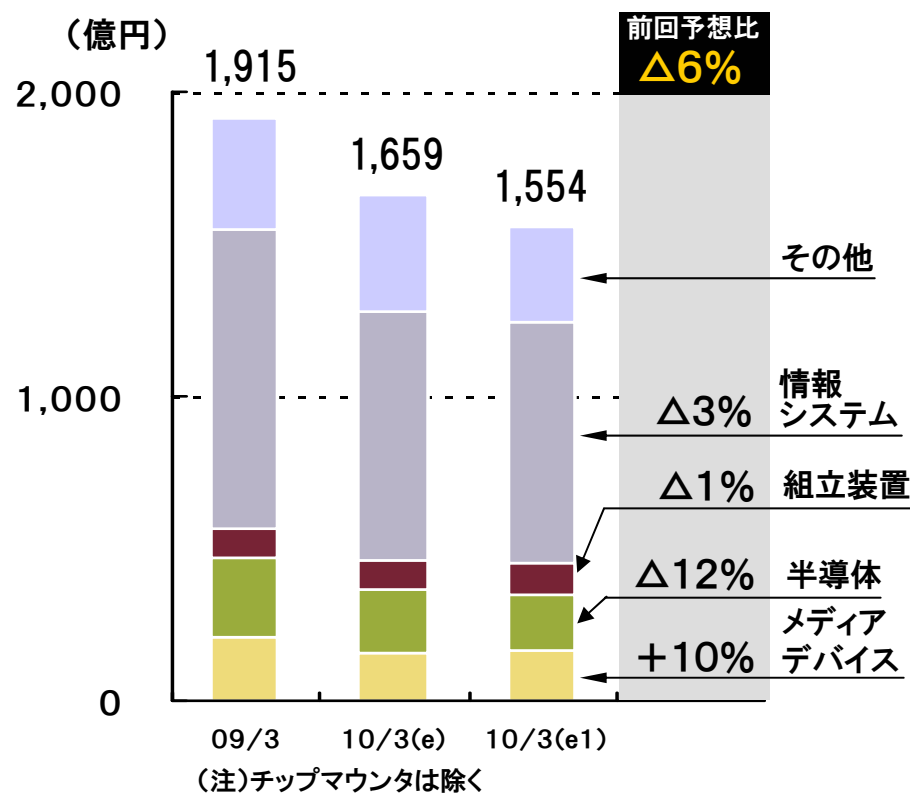


今後の取り組み

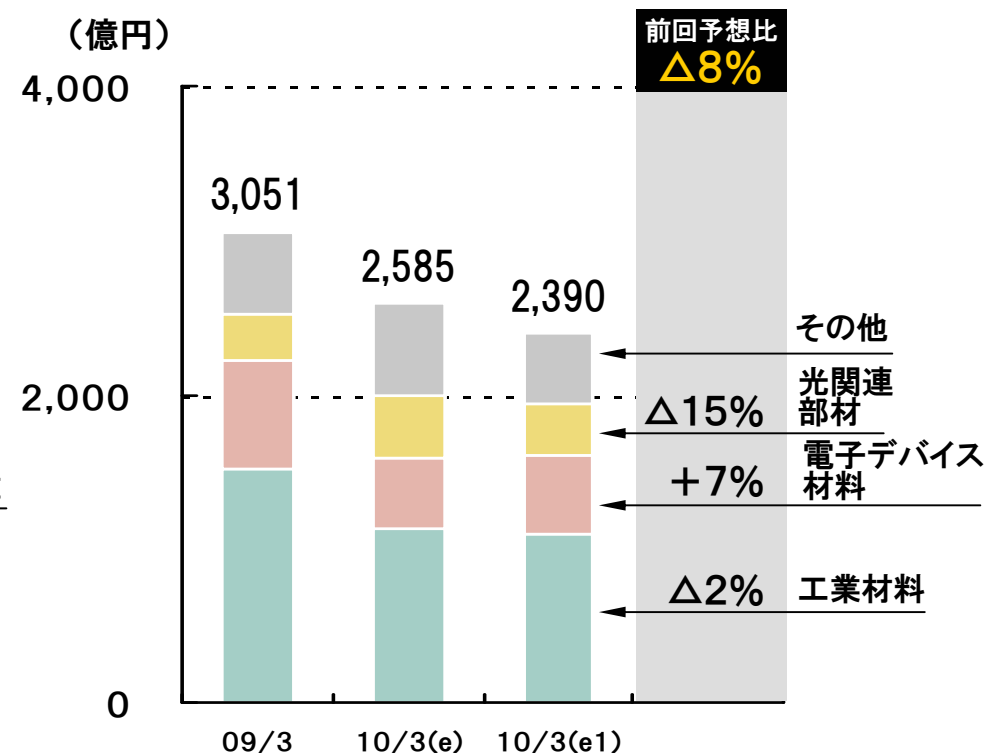
1. 先行営業の徹底による市場回復に同期した拡販立ち上げとシェアアップ
2. 徹底したコストダウンによる製品の競争力強化

(商事部門)売上高の推移

情報エレクトロニクス 売上高の推移



先端産業部材 売上高の推移



今後の取り組み

1. 好調ビジネス分野の拡大
(リチウムイオン電池、車載用HDD、液晶関連部材、光通信等)
2. 成長地域での開発の加速

(トピックス)ビジネス顕微鏡を活用した組織改革ソリューション

組織改革ソリューションの概要

ビジネス顕微鏡とは・・・

“世界初”

組織内のコミュニケーションの定量分析ツール

【2008.10.8 グッドデザイン賞受賞 】

事業立上げの経緯

2004年：日立製作所 基礎研究所が研究開発を開始
「MIT等、世界最高峰の研究機関と共同研究」

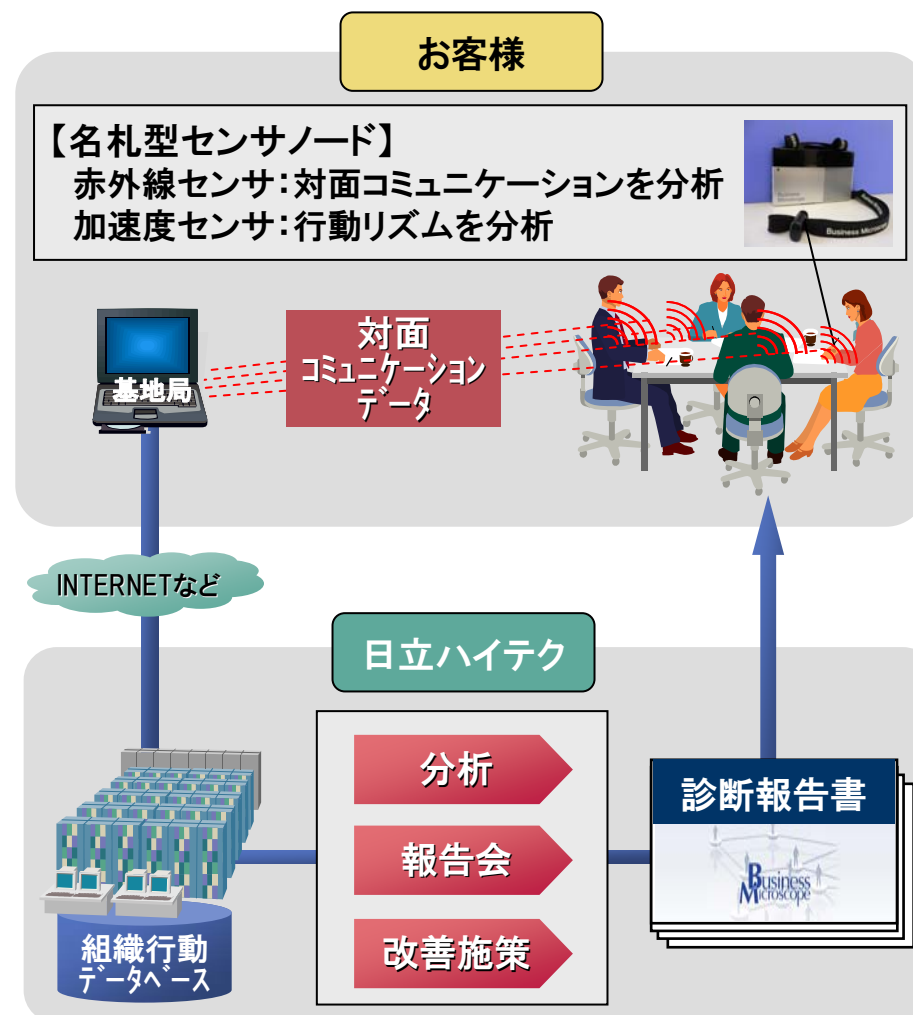
2008年：フィジビリティスタディを開始

2009年：事業化開始

知識労働者の生産性向上を実現



組織改革ソリューションの流れ



(トピックス)ビジネス顕微鏡を活用した組織改革ソリューション

システム開発部門(100人)における導入事例

ビジネス顕微鏡により明らかになった課題

分類	課題
組織の壁	正社員と協力会社との壁
チーム内の連携	担当が仕様の不明点を抱え込む 主任層の横の繋がりが弱い
社員の充実度	高ストレス者の比率が高い

改善効果

生産性(システム開発)の改善

	施策前	施策後
生産性(相対値)	100	116

◆改善効果

生産性の改善(100人組織)
 $1\text{M}\text{¥}/\text{人月} \times 16\% \times 100\text{人} = 16\text{M}\text{¥}/\text{月}$
 業績改善効果 = 1.9 億円/年

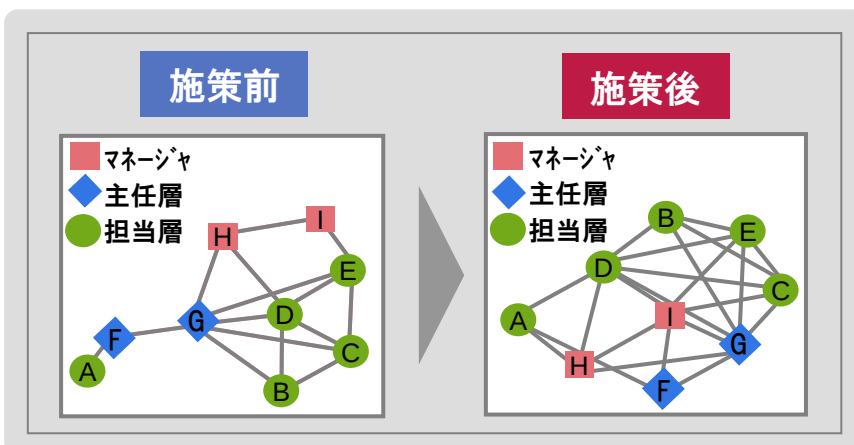
高ストレス者のリスク改善

	施策前	施策後
罹病率改善予想	7%	3%

◆改善効果

高ストレス者のリスク改善(100人組織)
 $1\text{M}\text{¥}/\text{人月} \times 4\% \times 100\text{人} = 4\text{M}\text{¥}/\text{月}$
 人件費改善効果 = 5 千万円/年

課題解決の改善施策を実施



Ⅲ

参考:データ集

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

四半期業績の推移

(億円)

	08年1Q	08年2Q	08年3Q	08年4Q	09年1Q	09年2Q
売上高	1,829	2,404	1,633	1,883	1,325	1,492
営業利益	19	106	23	1	△38	△38
経常利益	26	113	30	△4	△32	△37
当期利益	△2	78	20	△25	△20	△33

■セグメント別売上高

(億円)

	08年1Q	08年2Q	08年3Q	08年4Q	09年1Q	09年2Q
電子デバイスシステム	250	612	327	494	200	233
ライフサイエンス	248	243	213	273	207	233
情報エレクトロニクス	443	616	420	558	352	398
先端産業部材	888	933	673	558	566	628

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	08/1H	09/1H	前年 同期比	09/3	10/3 (e1)	前年 同期比
設備投資額	57	52	△8%	122	85	△31%
減価償却費	43	46	+7%	95	99	+4%
研究開発費	106	94	△11%	215	193	△10%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

前年同期比 増減説明 (09年度)

■ 設備投資額: 37億円減少

- ・那珂事業所増改築の延期など

■ 研究開発費: 22億円減少

- ・電子デバイスシステム、ライフサイエンスの要素技術開発など

主要製品群別売上高の状況

(億円)

	08/9	09/9	前年同期比	09/3	10/3(e1)	前年同期比
電子デバイスシステム	863	433	△50%	1,683	1,110	△34%
プロセス装置	288	97	△66%	532	211	△60%
評価・解析装置	281	175	△38%	519	495	△5%
液晶関連製造装置	138	72	△48%	392	230	△41%
HD関連製造装置	31	7	△79%	48	17	△65%
その他	124	82	△34%	192	157	△18%
ライフサイエンス	491	441	△10%	977	870	△11%
バイオ・分析	93	90	△3%	196	199	+1%
メディカル	367	339	△8%	730	645	△12%
その他	32	12	△62%	51	26	△49%
情報エレクトロニクス	1,059	749	△29%	2,038	1,630	△20%
情報システム	459	371	△19%	976	793	△19%
組立装置	143	65	△55%	222	174	△22%
半導体	168	84	△50%	265	183	△31%
メディアデバイス	124	95	△24%	205	169	△18%
その他	164	133	△19%	370	311	△16%
先端産業部材	1,820	1,194	△34%	3,051	2,390	△22%
工業材料	900	551	△39%	1,517	1,101	△27%
電子デバイス材料	464	265	△43%	707	495	△30%
光関連部材	155	162	+4%	288	338	+17%
その他	302	217	△28%	540	455	△16%

(注)09/3の“組立装置”(情報エレクトロニクス)と“工業材料”(先端産業部材)の数値を訂正しました。
 前回掲載値との差額はそれぞれのセグメントの“その他”に計上しております。

<資料取り扱い上の注意>

- ① 本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結です。
- ② YY/M(e)はYY年M月期予想を表しています。
- ③ 数値情報は、億円未満を四捨五入しています。
- ④ 増減率は、基本的に円単位で計算しています。
- ⑤ 本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに策定されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



END

2010年3月期第2四半期 決算説明会

お問合せ先
社長室 広報・IRグループ 部長代理 加藤 弘之
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail:kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

日立ハイテク

最先端を、最前線へ。